

平成 14 年 4 月 16 日

## 【写真の話】

水野 武和 会員



写真とは字のごとく、真（ありのままの姿）を写す事です。皆さんが撮られる写真はありのままに写っているだけでいいのですが、私の様にお客さんに来て頂き写真を撮ってお金をいただく、いわゆる営業写真を仕事にしている者にとってはそんなわけにはゆきません。

ありのまま写して（しわがそのままくっきりとか）はお客さんからは、よく写っているとは言ってもらえません。

皆さんの中でも写真を撮られる時に「きれいに撮ってね」と冗談のように言われる人も見えると思いますが、それはやはり本音であり、希望だと思います。

きれいに撮ってねと言われる意味は、色々あると思いますが、あたりまえの事です。ピントがあっていて、目が開いていて、写真の色が本当の色であり、ポーズ・表情がかしこまらず自然であり、肥えている人は少しスマートに、その上（これが多分一番の希望だと思います）年より少し若く撮ってもらいたい。

大体こんな所ではないかと思えます。お客さん一人一人に好みがあり、その上本人が気に入っても写真は多くの方が目にする場合が多いので、その方全部を満足させる事は大変難しい事です。例えばピントの事です。成人式の写真で少しボカして（ピントのシンは外さずに）ソフトに撮って柔らかいムードある写真でいい感じで、写された本人も喜んで見えたが、田舎のお婆ちゃんが見て「なんやこの写真屋へたやな、ボケとるやないか。」と言われてしまった話を聞きました。これは極端な例ですが、私も結婚式の写真で、お嫁さんが和装の一人の写真で、少し微笑んで見えた写真をいいなあと思って、お渡しした事がありましたが、本人は何とも言うてみえませんでした。親戚の人から「結婚式の写真で笑っているとは」とお叱りを受けた事がありました。

それで営業写真としては、写した写真が全部素晴らしいと言っていたければゆうことありませんが、お顔の修正を少しして、少し若くしたり、お客さんをリラックスさせながら撮影し、全部の写真がありのままより少しきれいに言われるよう、平均点以上になるよう努力してるようなわけです。